

賛助会員のお願い

公益財団法人パブリックリソース財団

賛助会員のお願い

賛助会員として、弊財団の組織基盤強化にご支援くださいますようお願い申し上げます。

【賛助会員制度の概要】

- ① 賛助会費の使途：賛助会費は、全額、弊財団の運営経費として活用させていただきます。
- ② お申込み単位：(個人) 1口 年1万円、(法人) 1口 年10万円とし、何口でも可。
- ③ 弊財団の賛助会費は、税制優遇の対象となります。
お申し込みいただいた皆様には、税務申告用に弊財団発行の領収書を郵送でお送り申し上げます。
- ④ 賛助会員の特典：
 - ・ご希望に応じ、寄付およびその他の社会貢献の方法について、個別相談の機会を活用いただけます。
(2回目以降は有料となる場合があります。)
 - ・弊財団のメーリングリストに登載し、メルマガ等で最新の情報をお届けいたします。
 - ・弊財団の出版物を優待価格で購入できます。
 - ・弊財団が主催、共催する研修会、セミナー等に優待価格で参加できます。

【お申し込み方法】

オンラインの場合

弊財団のホームページからオンライン寄付サイトGive One(ギブワン)へ移り、Give Oneシステムで賛助会員のお申し込みがいただけます。

銀行振り込みの場合

1. 「賛助会員申込書」にご記入の上、以下にお送りください。
(「賛助会員申込書」は当財団ウェブサイトからダウンロードいただけます)

公益財団法人パブリックリソース財団

メール：center@public.or.jp Fax：03-5540-1030

2. 最寄りの金融機関でお振込をお願いいたします。

ジャパンネット銀行 (銀行コード：0033)

はやぶさ支店 (支店コード：003)

口座番号：普通預金 1872673

口座名義：公益財団法人 パブリックリソース財団寄付金口

フリガナ：ザイ)パブリックリソースザイダンキフキンクチ

ゆうちょ銀行

〇一九(ゼロイチキユウ)支店

口座記号：00120-9

口座番号：当座預金 0487339

口座名義：公益財団法人 パブリックリソース財団

フリガナ：ザイ)パブリックリソースザイダン

公益財団法人パブリックリソース財団

〒104-0043 東京都中央区湊2丁目16-25 ライオンズマンション鉄砲洲第3 202号

【まずはお電話またはメールで
お問い合わせください】 TEL:03-5540-6256 FAX:03-5540-1030
E-mail:center@public.or.jp HP:www.public.or.jp



Public Resources Foundation

— 2018年度事業報告書 —



公益財団法人 パブリックリソース財団

ごあいさつ

私たちは“意志ある寄付で社会を変える”をミッションに掲げ、寄付者（個人または企業）の持つ意志を尊重する「あなたの財団」となることを宣言しました。

寄付者の社会貢献の想いを、共感をもって傾聴し、解決すべき社会的課題を明らかにし、例えば「オリジナル基金」を創設して、NPOや社会的企業あるいは有為な若者に助成金、奨学金という形で資金を届けます。

NPOや社会的企業などは、私たちのパートナーです。

パートナーの活動を通じて、寄付者が望む社会へと一歩一歩近づいていくのです。

その活動の成果を把握し、感謝とともに寄付者にフィードバックするとき、寄付の手ごたえを実感していただけます。

「ドナーファースト」、寄付者起点の財団として、寄付者とパートナーを結び付け、

新しい価値と社会を創造することが私たちの役割です。

人はたくさんの“縁”に支えられて、人生を歩んでいきます。

辛いことや悲しみは“縁”によって救われ、喜びや楽しさを味わうことができます。

そうした“縁”に感謝し、いただいた“恩”を次の世代に送ろうという寄付は、

「分かち合いの精神」の発露、「人間愛を基本とした利他性」の具現化です。

寄付者お一人おひとりの想いや志が広がるとき、

誰もが希望を失わず、生きがいをもっていきいきと生きられる社会を実現できるのだと信じています。

弊財団の6年目・2018年度の実績と、寄付者等の皆様の声を取りまとめましたので、ご高覧ください。

平素のご支援、ご協力に感謝し、引き続きのご支援、ご指導をお願い申し上げます。

2019年

公益財団法人パブリックリソース財団

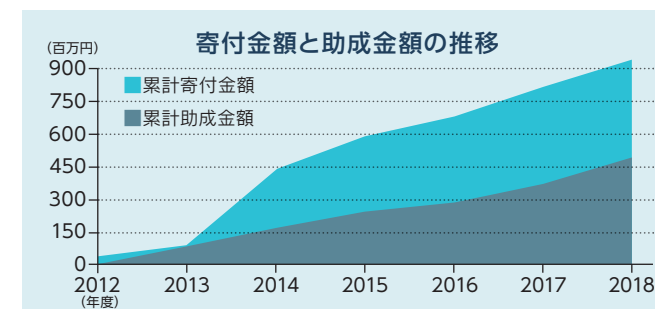
代表理事 久住 剛（理事長）

代表理事 岸本幸子（専務理事）

数字で見る2018年度のパブリックリソース財団

寄付金額 ▶ 160,104,072円

2013年1月に公益財団としてスタートして以来、7会計年度で累計9億5千万円を超えるご寄付をお預かりし、約4億9,700万円を助成金として提供しています。



寄付件数 ▶ 5,707件

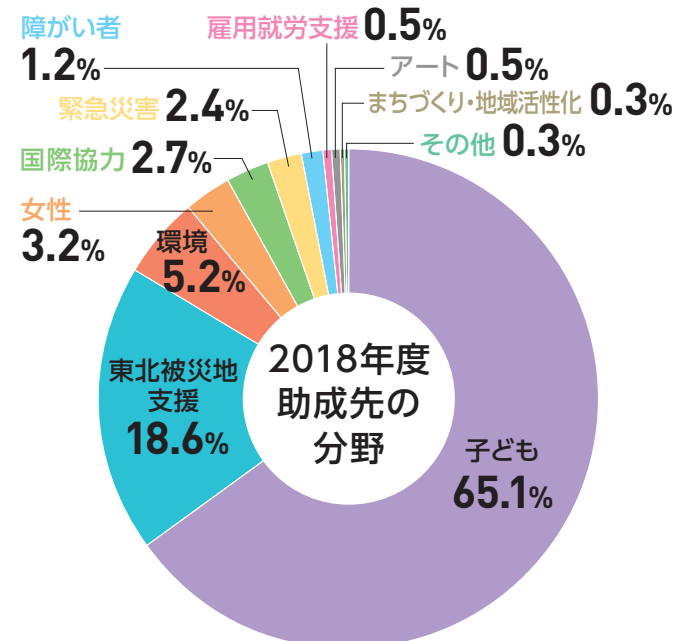
多くの方々からお志のこもったご寄付をいただきました。このうち5,254件がGive One（ギブワン）を通じたオンライン寄付、453件がオリジナル基金などの寄付でした。

応募数（個人・団体） ▶ 380件

全国各地よりたくさんのご応募をいただきました。

助成金額 ▶ 129,894,938円

いただいたご寄付は、個人への奨学金やNPOなどの団体への助成金として提供されました。子ども、東北被災地支援、環境や女性など幅広い分野の活動を後押ししています。



Give One登録団体数 ▶ 185団体

オンライン寄付サイトGive One（ギブワン）を通じて、パブリックリソース財団とNPOのネットワークがさらに拡大しました。

助成対象団体数 ▶ 230団体

Give One（ギブワン）による助成や前年度からの継続助成を含め、230の団体と助成事業を進めています。団体の所在地域も北海道から沖縄まで、全国各地へ広がっています。

コンサルティング件数 ▶ 19件

パブリックリソース財団の特色のひとつが、NPOへのコンサルティングサービスです。本年度も19の団体への組織診断や組織基盤強化のコンサルティングを行ない、団体の活動とさらなる成長を支援しました。

掲載メディア ▶ 新聞13紙、雑誌5冊
テレビ4局、書籍1冊、
ラジオ2局、ネットニュース3本

パブリックリソース財団の動きをメディアがキャッチし、記事として掲載いただく機会が増大しました。

設置基金数 ▶ 19基金

多様なテーマをもった基金を続々と設立しています。今年度も5つの基金を新たに設立しました。

物品寄贈数 ▶ 22件

AED基金を通じて、4台のAEDを寄贈しました。株主優待品を活用する優活プロジェクトを通じて、18件の物品寄贈を行いました。

奨学生数 ▶ 52人

地域の金融機関との協働や個人の方からのご寄付により、昨年度の40人より多くの学生を奨学生として選定しました。

パブリックリソース財団の歩み

NPO リーダーの育成	NPOマネジメント	調査研究	評価	年 主な出来事	社会的投資	寄付の推進	CSRの推進
				2000 1月 NPO法人パブリックリソースセンターとしてスタート			
		● パブリックリソースに関する基礎調査 ● ウイメンズファンドフォーラム		2001	● SRI (企業の社会的責任投資) のための企業の社会性調査を開始		
		● 「パブリックリソース・ハンドブック」出版		2002		● オンライン寄付 GambaNPO.netの運営開始	
	● NPO組織診断ツールの開発	● NPOの組織基盤強化支援に関する調査研究		2003	● 社債運用に関するSRI コンサルテーション		
	● 組織診断・コンサルティングの開始	● キャパシティビルディングフォーラム		2004			
	● NPOマネジメント支援コンサルタント養成講座の開始			2005			● CSRインターンシップ・プログラムの運営(立教大学)
	● NPOマネジメント基礎講座開始			2006			● 世界11カ国における日本企業のCSR活動の調査
		● 米国における寄付関連金融商品の動向に関する調査研究	● 企業の社会貢献活動の成果評価を開始	2007			● 企業の社会貢献プログラムの支援を開始
	● 通信講座を開始			2008 12月 公益法人改革		● Give One (ギブワン) に名称を変えてリニューアル	
● 社会起業大学との協働		● 「NPO実践マネジメント入門」出版		2009			● 社員募金プログラム支援を開始
● 「新しい公共」支援事業における社会起業家育成事業		● サステナブル・インベストメント・フォーラム	● 企業の助成プログラムの事業評価を開始	2010			● 寄付つき商品の開発支援の開始
● 東日本大震災被災地における社会起業家育成事業	● (約130名が受講)	● SROIに関する調査研究		2011 3月 東日本大震災福島原発事故6月 新寄付税制公布		● (オンライン寄付) 累計1億円突破	
	● (組織診断30団体突破)	● SROIセミナーの開催(東京・大阪)	● 東北の被災地支援のSROI評価	2012			
	● 中間支援4団体に組織診断ノウハウを移転			2013 1月 公益財団法人化 パブリックリソース財団設立		● 「アート&ヘルス基金」設置	● 企業基金 「未来につなぐふるさと基金」を設置
			● 組織基盤強化事業のSROI評価	2014	● 財団初の個人基金 「井上圭子様メモリアル基金」設置 ● 「ふくしま未来基金」設置 ● 遺贈支援の開始		
			● 中小企業経営革新のSROI評価	2015	● 女性が支える女性のための「あい基金」設置		
● 福島未来を切り拓く人材育成「ふくしま志高塾」	● (組織診断40団体突破)	● 「寄付適格性」評価手法の開発		2016	● (オンライン寄付) 累計2億円突破	● 「純 子ども基金」設置 ● 「いぞう寄付の窓口」加盟団体になる	● 全国初 信用組合による社会貢献プラットフォーム 「魚沼の未来基金」設置
	● 福島でコンサルタント養成講座を開催	● 「寄付適格性」評価の実施		2017	● 「東北3.11基金」設置 ● 「I.H.K基金」設置 ● 「ゆーじチャレンジ基金」設置 ● ValueMaker オープン ● 財団初の遺贈実行	● 顕彰事業 「チャンピオン・オブ・チェンジ日本大賞」開始 ● 企業基金 「大和証券グループ輝く未来へ こども応援基金」設置 ● 企業基金 「ゴールドマン・サックス基金」設置	● 企業基金 「未来につなぐふるさと基金」を設置
	● 東京にてコンサルタント養成講座を開催		● 日本初のSROI認証の取得				● 株式会社パブリック不動産設立
● 「JWLI」日本事務局の運営開始	● (組織診断50団体突破)			2018	● 第一勧業信用組合と包括連携協定 ● 「Women's Social Change Fund」設置 ● 「角方基金」設置 ● 「佐渡水仙」基金」設置 ● 「緊急震災支援基金」設置 ● プライベートバンク・スクールにてフィナンソロビーに関するセッションを実施		● ランドマーク税理士法人との連携協定

設置している基金 (2019年8月現在)

テーマ基金

- **AED・地域あんしん基金** AEDが地域のどこでも使えるように
- **アート&ヘルス基金** ケアの現場に「生きることを支えるアート」を
- **ふくしま未来基金** 30年後の福島が、人々がいきいきと暮らせる地域であるように (▶P.12)
- **あい基金** 女性の経済的自立を目指して (▶P.10)
- **魚沼の未来基金** 魚沼地域の未来を切り拓く人材を支援 (▶P.16)
- **Good Job! 基金** 障がいのある人と協働を実践する取り組みを支援

個人基金 (▶P.8)

- **純 子ども基金** こどもの貧困問題の解決を目指す団体の組織基盤強化を支援
- **ゆーじチャレンジ基金** 児童養護施設出身の若者を応援
- **I.H.K基金** 医療福祉分野で活躍する児童養護施設出身の女性を応援
- **Women's Social Change Fund** 女性が女性を支援するエコシステムを開発
- **角方基金** 若者の教育を支援するために
- **移民・難民支援基金** 日本国内の外国籍や外国にルーツをもつ人々を支援

企業基金

- **東北3.11基金** 東日本大震災で影響を受けた子どもや保護者を支援 (▶P.19)
- **未来につなぐふるさと基金** 生物多様性の啓発プログラムの実施を支援 (▶P.15)
- **大和証券グループ 輝く未来へ こども応援基金** 貧困の連鎖を断ち切るイノベティブな事業開発を支援 (▶P.14)
- **緊急震災支援基金** 緊急災害にスピーディーに対応する
- **ゴールドマン・サックス基金** 教育支援から子どもの貧困問題を解決する

遺贈・相続財産からのご寄付によって創設された基金

- **高山基金** 日本のすべての子どもたちの健やかな成長を願って
- **佐渡水仙基金** 医療系人材の育成を願って

写真で見る2018年度の基金の活動



1 キヤノンマーケティングジャパン株式会社のご寄付により、NPO法人命と子育て応援隊FADへAEDを寄贈。AEDが身近にあることを地域の方々にも周知し、いつでも使えるようにしています (AED・地域あんしん基金)。

2 助成期間終了後には、助成対象団体が一堂に会して互いの成果を報告し合い、意見交換を行って今後の活動に活かしています (未来につなぐふるさと基金)。

3 あい基金では、寄付者の方々と共にスタディ・ツアーを実施。助成対象団体をはじめ、迷いながらも力強く前進する女性起業家たちの取り組みに触れてきました (あい基金)。

4 NPOマネジメント支援コンサルタント養成講座の修了生のうち、同基金の助成対象団体の組織診断やロジックモデル策定支援等において2019年8月までに延べ16名が参画しています (ふくしま未来基金)。

1

「『あなたの財団』宣言」を採択!

企業、市民が社会課題解決に取り組むときの手段として、「公益財団法人」という器を活用していただきたいという想いを込めて、「『あなたの財団』宣言」を採択しました。いま、SDGsに代表されるように、貧困、教育、環境などのさまざまな問題解決に向けて、セクターを超えた協働や幅広い市民参画が必要とされています。弊財団は、さまざまな形で企業等の社会貢献やCSR活動と協働してきました。また、個人に対しても「オリジナル基金」創設、日本初のオンライン寄付サイトGive One（ギブワン）の運営をはじめとした先進的でパーソナルな社会貢献の機会を提供しています。今後も、寄付者の「社会をよりよいものにしたい」という想いを実現し、持続可能で誰をも排除しない社会をつくることに貢献します。(▶P.06、P.08)

「あなたの財団」
宣言!
FOR YOUR IMPACT GIVING

2

不動産を活用した寄付・社会貢献を支援!

不動産による寄付・遺贈、不動産を活用した社会貢献をお考えの方をサポートする、専門不動産「パブリック不動産」との連携を開始しました。不動産を直接または売却して公益活動団体へ寄付したいとお考えの「不動産オーナー」の皆様、不動産を公益活動団体へ寄付したいとの相談を受けている専門家の皆様、不動産寄付を受け入れたい公益法人・NPOの皆様、それぞれのご相談・サポートに応じます。寄付者の想いや志を最大限生かして、寄付を受けた団体にとって最も活用できるよう、きめ細かいプランをご提案していきます。不動産を社会的・公益的な活動を行うための経営資源「パブリックリソース」として活用し、非営利・公益活動のための経営資源の充実によって社会問題の解決に寄与します。



株式会社パブリック不動産
Public Realty Corporation

株式会社パブリック不動産は、2018年6月3日に創設されました



サイトイメージ (<https://prc-public.com/>)

3

日本初! 寄付者参加型プログラム「あい基金ギビング・サークル」創設

東日本大震災等の被災地にフォーカスし、「女性の経済的自立の実現」に着目して取り組むNPOや社会的企業を、資金提供やマネジメント支援などを通じて応援する「あい基金」。多くの女性が女性を支えるユニークな基金として、それぞれが立場を超えて、共通の関心に対し、寄付を通じて力を合わせて立ち向かう場づくりを目指しています。2018年度からは、新しい参加型プログラム「あい基金ギビング・サークル」が始動しました。毎年決められた会費を集め、メンバーと一緒に話し合い、自ら支援先を決めることで、より大きな寄付のインパクトを生み出します。さらに、多様なメンバーが集うプログラムを通じて、学びと成長の機会を得ることができます。(▶P.13)



2019年3月「あい基金フォーラム」にて、「あい基金ギビング・サークル」の創設を宣言しました

4

第一勧業信用組合と包括連携協定を締結

第一勧業信用組合と弊財団は、両者が持つノウハウ、ネットワークを活かして、地域の社会課題解決に取り組む活動および社会的貢献活動を支援し、社会問題解決や社会的金融の推進を図ることなどを目的として「連携協力に関する協定書」を締結しました。これに基づき、ソーシャルビジネスを発展させることを目的とした「東京ソーシャルビジネス・アクセラレーター」プログラムを2019年度から第一勧業信用組合の主催で実施しています。弊財団ではこのプログラムの運営を担い、ソーシャルビジネスに取り組む個人、NPO、公益団体、社会的企業に対するメンタリング支援、「社会的インパクト可能性評価」とそのフィードバックなど、マネジメント面でのバックアップを行っています。



2019年5月23日に「東京ソーシャルビジネス・アクセラレーター」記者発表を行いました

右から 弊財団理事長 久住 剛
第一勧業信用組合 理事長 新田 信行 氏
プラスソーシャルインベストメント株式会社 社長 野池雅人 氏

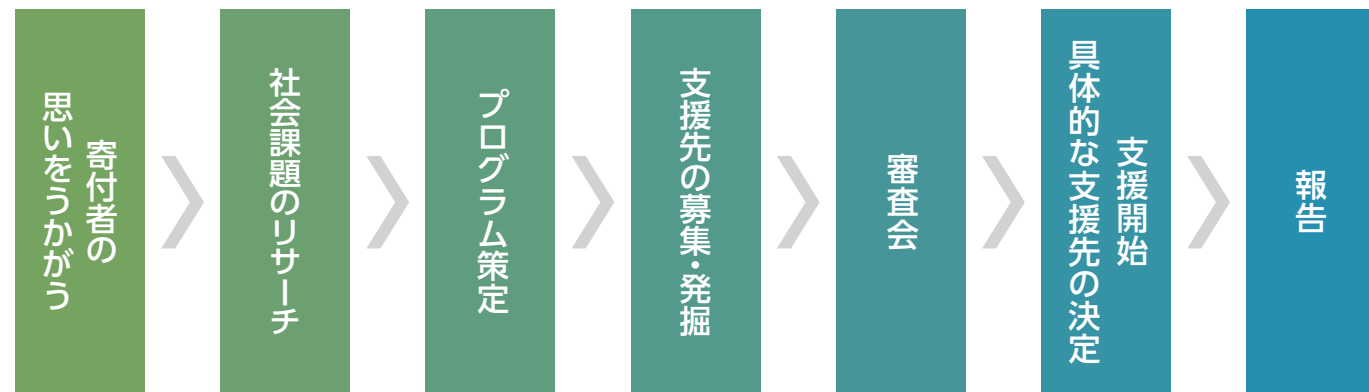
結婚記念、退職、古希や米寿、相続や遺言による寄付など、人生の節目に寄付をしたい。企業の新商品発表、周年記念事業などの折に社会貢献をしたい。そのような寄付者の様々な想いを形にする、オリジナル基金を推進しています。

志を活かすオリジナルプログラムの設計

弊財団では、継続的に社会貢献したいという方の志をかなえるために、新規に財団を設立するのと同様の機能を持たせることのできる「基金」の設立でサポートをしています。基金は100万円から創設できます。ご希望の名称を付けられるほか、ご寄付いただく方の想いを基金に表すことができます。

- 個人の方も、法人の方も創設いただけます。
- ご希望の名称をお付けいただけます。
- 弊財団へのご寄付は税制優遇の対象となります。
- ご希望によって、寄付者の基金設立に寄せる思いやご家族の歴史を、パンフレットやビデオにまとめます。
- まとまった額のオリジナル基金の場合は、複数年にわたる助成を設計することができます。
- 支援の形は「経済的に困難な子どもたちへの奨学金」「NPO等への資金助成」「熱心に活動する若手リーダーへの顕彰」など様々なご要望についてご相談をお受けしています。

<オリジナル基金創設の流れ>



遺贈、相続をきっかけとする寄付

ビジネスや家庭で充実した人生を築いてこられたゴールデンエイジの方々へ、「末永い社会貢献」を実現していただく遺贈や相続に伴う寄付をご提案しています。

遺贈とは、遺言書をつくり、残す財産（遺産）を相続人以外の特定の人や団体に送ったり、寄付することをいいます。遺贈先を当財団にご指定いただくことで、生涯で築かれた財産を「オリジナル基金」として末永く社会に役立てることができます。また、相続された財産の一部をご寄付いただき、故人の名前を冠する「メモリアル基金」をおつくりいただけます。故人の生涯を讃え、遺志を引き継ぐことができます。

※弊財団は、全国レガシーギフト協会の「いぞう寄付の窓口」加盟団体です。安心して遺贈を行うための無料相談や、遺贈寄付に対する情報の提供、遺贈の寄付先団体のご紹介（基準をクリアした団体のみ）、遺贈の活用方法のご提案を行います。



専門家のコメント

ランドマーク税理士法人 代表
清田 幸弘様

税制改正による基礎控除額の引き下げで、相続税対策のご相談が増えています。社会的な意義のある寄付を選択肢にする方へ、パブリックリソース財団と共同して個人基金の設立や遺贈のご提案を広げていきたいと思います。
※ランドマーク税理士法人は当財団と提携し、同社の顧客に相続対策の一環として個人基金の設立・運営から寄付先、支援団体の選定アドバイスを提供しています。



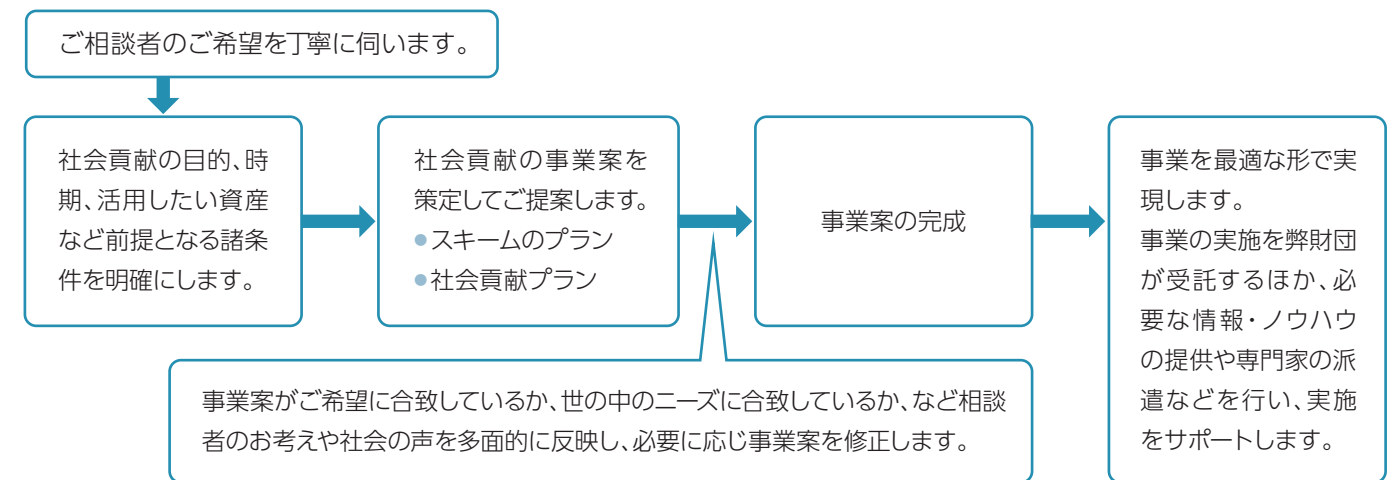
弊財団では、社会貢献を考える個人、企業の方、寄付や遺贈をサポートする弁護士や税理士等の専門家や金融機関がお持ちになる様々なご質問、ご要望におこたえして、お志の実現をサポートしています。

- 想いを実現できる最適な寄付先はどこだろうか？
- オリジナル基金を創設したい！
- 遺贈寄付にまつわる様々なご相談
- 不動産や株式などの資産寄付を考えている。
- 弁護士や税理士など遺贈寄付に習熟した専門家を紹介してほしい！
- 一般財団、社団をつくりたい。
- 既存の財団の改善や運営受託
- 公益法人化に向けての助言、支援
- 助成プログラムの見直し、制度設計、実施支援
- 企業の社会貢献プログラムの設計や運営の受託
- 社員募金、社員ボランティア、プロボノプログラムを実現したい！
- 購買連動型寄付（コース・リレーテッド・マーケティング）の企画、実施支援 など

ご提案する社会貢献活動の例

- ・ NPOや社会的企業への助成金提供
- ・ 個人に対する奨学金制度
- ・ 個人や団体を顕彰する表彰制度
- ・ ボランティアやスタディツアーの実施
- ・ NPOや社会的企業の組織基盤強化のためのコンサルタント派遣や研修事業の実施
- ・ 政策研究、アドボカシー、ネットワーキングの支援

<ご相談の流れ>



<実施例のご紹介>

金融機関の職員向けにフィランソロピーの講演を実施

日本証券アナリスト協会の行う、第16回プライベートバンカースクールにて、「日本でのフィランソロピーのHOW TO –その定義、特長、具体的な進め方–」というテーマで、弊財団専務理事の岸本幸子が講演をいたしました。高齢化社会の中で実業家や資産家層の方々の中にも、事業継承やレガシー構築と合わせて寄付への関心が高まりつつあります。ウェルスマネジメントを担当する金融機関や専門家に向けて弊財団の取り組みを紹介し、寄付者の人生を豊かにする寄付や社会貢献のあり方についてお話をしました。

弊財団では、今後も同協会や金融機関と協力・連携しながら、市民の方々が寄付、遺贈等をしやすい社会づくりを行っていきます。



あい基金

すべての女性が自らの力で人生を選択できる社会を目指して

豊かになったはずの日本に残る女性の貧困問題。非正規雇用やシングルマザー、親の介護などに起因し、負の連鎖が次の世代に及ぶことで将来の経済不安に繋がる深刻な社会リスクをはらんでいます。あい基金は、多様な場で働く女性や企業が立場を越えて協力する、日本初の女性のための基金です。「女性の経済的自立の実現」に着目し、取り組むNPOや社会的企業を、資金提供やマネジメント支援などを通じ応援していきます。



あい基金

女性が未来をつくる

「あい基金フォーラム」を開催

基金創設5年目を迎え、「あい基金フォーラム2019『地域の未来を創る女性たち』」を開催しました。パネルディスカッションには、あい基金が創設以来応援してきた、東北被災地で地域の担い手となる女性リーダー4名をお迎えしました。地域でどのような変化が起きているのか、活動の苦労や課題、実体験を通じた熱い思いを会場の参加者と共有する場となりました。パネリストからは「自分で何かやりたいと思っている女性たちはたくさんいるが、地方にいる女性たちに資金がなかなか流れてこない」という声があり、地域活性における女性の活躍の重要性やそれを支援する仕組みの必要性についての問題提起もされました。また、同フォーラムで、下記に紹介する「あい基金ギビング・サークル」の創設を宣言しました。



「あい基金ギビング・サークル」を創設

あい基金は、女性たちがそれぞれの立場を超えて、寄付を通じて力を合わせて立ち向かう場となることを目指しています。これまでに約100名からの寄付により、東北被災地にフォーカスをあて「女性がリードする地域活性化」を応援してきました。その中で、寄付者から、「支援する先を自分たちで決めたい」「現場を知りたい」「寄付者同士で交流がしたい」という声をいただき、日本初の参加型寄付者プログラム「あい基金ギビング・サークル」を創設しました。メンバーが話し合って自ら支援先を決めることで「自分の寄付が社会を変える」ことをより実感でき、大きな寄付のインパクトを生み出します。また、寄付者自らが現地を訪れ、実践者と交流することを通じて、女性がいきいきと活躍する地域社会づくりに主体的に参加することを目指しています。

あい基金ギビング・サークルの会費制度

	特典					
	メルマガ	活動報告書 送付	授賞式・ 活動報告会	セミナー・ 交流会	現地視察 (助成候補団体訪問)	助成先投票権
I Club member — 10万円/年	●	●	●	—	—	—
I Club GOLD member — 30万円/年	●	●	●	●	—	—
I Partners — 100万円/年	●	●	●	●	●	●

寄付金額 …… 1,169,168円
 助成金額 …… 500,000円(総額)
※前年度以前受け入れ寄付分も含む

応募団体数 …… 11団体
 助成対象団体数 …… 1団体
 助成対象団体名と助成対象事業名

- NPO法人SET

「『カフェ彩葉』(岩手県広田町を好きになれる空間をコンセプトとした古民家カフェ)の運営プロジェクト」

I Partners メンバーのコメント

一般社団法人Women Help Women 代表理事
西田 治子様



以前、大手外資系コンサルティング会社に勤務しており、日本と海外を行き来する機会に恵まれていました。その中で、特に途上国では、厳しい現状がありながらもバイタリティーに満ち溢れる多くの女性たちと出会いました。途上国では、女性たちが自らの力で物を作るなどして起業し、自立していく事例をたくさん見てきました。女性たちが自立すれば、子どもに教育を受けさせたり、次世代にも影響を与えていきます。女性への支援が大きな社会的インパクトを生むと実感しました。しかし逆に、日本はこのままで大丈夫なのだろうかと心配になりました。女性たちをサポートすることで、地域の小さな経済を生み出す、そのアプローチを「あい基金ギビング・サークル」を通じて実現していきたいです。



「チャンピオン・オブ・チェンジ」日本大賞

女性の力で誰もが安心して暮らせる豊かな社会を

CCJA

Champion of Change
Japan Award

「チャンピオン・オブ・チェンジ」日本大賞(CCJA)は、米国のオバマ前大統領が発案した“Champion of Change”賞を2013年に受賞したボストン在住の日本女性、厚子・東光・フィッシュさんの熱い思いから2017年に創設されました。地域社会における暮らしの質の向上や誰もが安心して暮らせる社会の実現に向けて、イノベティブな発想をもとに活躍する女性リーダーの活動に光を当て、賞を贈ることで日本女性のロールモデルを示すことを願って生まれたものです。弊財団は日本事務局として、フィッシュ・ファミリー財団と協働してこの事業を運営しています。

2018年度CCJAの表彰式を開催

第2回目の開催となる2018年度も、全国から他薦により応募者を募集しました。143名の応募の中から、厳正な選考の結果、認定NPO法人女性と子ども支援センターウィメンズネット・こうべ代表理事の正井禮子様が栄えある大賞に選ばれました。正井様は、DV、貧困、災害など、女性の人権を脅かすさまざまな課題に息長く取り組んでいます。そのほか、多岐にわたる分野で活躍する7団体8名の女性リーダーが入賞されました。

創設者のコメント

(表彰式のスピーチより一部抜粋・編集)

米国 フィッシュ・ファミリー財団 共同創設者・理事 厚子・東光・フィッシュ様

今回の入賞者の方たちにお会いして感じたことは、日本のソーシャルセクターの実情が非常に変わりつつあるということです。ソーシャルチェンジを実現した女性たちは、現地の声を社会につなげていく専門家であり、提案者です。彼女たちの声は、地域社会や企業、学校、もしくは政治に対して提言できる力を持っています。女性たちの力を集め、日本をどんどん大きく変えていってほしいと思っています。



大賞受賞者のコメント

(表彰式のスピーチより一部抜粋・編集)

認定NPO法人 女性と子ども支援センターウィメンズネット・こうべ 代表理事 正井 禮子様

活動を始めて27年になりますが、こんな日が来るとは思っていませんでした。ありがとうございます。いろいろな被害者の女性に出会いますが、「私たちは暴力が貧困しか選べないのですか」と多くの方が言います。暴力から離れても、その後の生活の問題が解決するわけではありません。仕事もコミュニティもすべてを捨てて逃げて来るんです。デンマークのシェルターを視察したときに、日本と違って出入りも自由なことに驚きました。「DVの被害を受けた人も普通の生活をする権利がある。それがノーマライゼーションだ」と言われたことが印象に残っています。女性たちの抱えている問題を解決するには、女性が意思決定の場にいることが必要だということも学びました。そういう時代が来ることを願っています。



内容 …… 大賞1名:正賞(ティファニー社製ボウル)と
 副賞100万円
 入賞者7団体8名:ティファニー社製の記念品

応募総数 …… 143件
 表彰式参加者数 …… 106名

大賞

- 正井禮子様

認定NPO法人 女性と子ども支援センターウィメンズネット・こうべ 代表理事

入賞者

- 阿部真紀様 認定NPO法人 エンパワメントかながわ 理事長
- 熊仁美様・竹内弓乃様 NPO法人ADDS 共同代表(理事)
- 杉山絢子様 一般社団法人 CAN net(キャンネット) 代表理事
- 橘ジュン様 NPO法人 BONDプロジェクト 代表
- 田村亜紀子様 NPO法人 チャイルド・ケモ・ハウス 副理事長
- 村島弘子様 NPO法人 移動支援Rera 代表理事
- 吉田恵美子様 NPO法人 ザ・ピープル 理事長／
いわきおてんとSUN企業組合代表理事

30年後の福島が、誰もがいきいきと生きていける地域となることに貢献するNPO等を支援しようと、福島県内の実業家および地域貢献をめざす企業からの寄付によって2014年に創設されました。東日本大震災から8年が過ぎましたが、福島県は原発事故によって、住民の帰還や復興などが他県に比較して立ち遅れています。それに関わらず、資金支援は次々と撤退しています。福島のNPOは「増える支援ニーズ」と「資金の減少」というはざまに立たされており、職員や役員たちもギリギリの状況で奮闘している現実があります。2018年度は「助成事業」「コンサルタント養成講座」「ふくしま志高塾」の他、助成団体の組織力を上げる経営技術支援を実施しました。

寄付者のコメント

ふくしま未来基金 創設者
佐藤 勝三様



30年後の福島を元気で明るい社会にするため、パブリックリソース財団と一緒にふくしまの未来づくりに取り組み始めて、4年目となりました。ふくしま未来基金を始めとした「助成事業」や「ふくしま志高塾」「コンサルタント養成講座」など、様々な方向から複合的に支援を行うことで、成果をあげはじめています。福島の団体が今後ますます元気になるように、県内の皆様と共に、福島の未来を創っていけたら良いと考えております。

30年後の福島

NPOによる、成果の出る取り組み

NPOを支援

・助成事業
・公開研究会

支援環境を作る

コンサルタント
養成講座

人材を育成

・ふくしま志高塾
・NPO実践
マネジメント
入門講座



2本立ての助成事業

福島の将来を支える中核的な団体への「未来づくり助成」と、人々の心と生活の復興に貢献する民間活動を支援する「まちづくり草の根助成」の2本立てで助成事業を行っています。

【未来づくり助成】:300万円の助成金+50万円分のコンサルティング支援

【まちづくり草の根助成】:100万円の助成金 + 組織診断

寄付金額(累計)……………352,590,500円

助成金額……………23,295,320円(総額)

応募団体数……………52団体

助成対象団体数……………15団体

助成対象団体名と助成対象事業名

【未来づくり助成】()内は支援年数

- NPO法人いわき自立生活センター(初)
「『観福連携』によるバリアのない観光地福島づくり」
- 一般社団法人えこえね南相馬研究機構(2)
「子どもたちに循環型の未来をつくるコミュニティバイオガスのモデルづくり」
- 一般社団法人Bridge for Fukushima(2)
「未来の起業家育成事業」
- NPO法人みんなのひろば(2)
「相談支援事業所そーだんひろば」の開設と職員育成による支援力向上プロジェクト」
- NPO法人Leaf(2)
「Fukushimart academy プロジェクト」

【まちづくり草の根助成】

- 公益社団法人あい権利擁護支援ネット
「東日本大震災・原発事故避難民の生活再建のための権利擁護促進事業(2年目)」
- NPO法人あさがお
「ともに手をつなぎひかりに」

- NPO法人0073(おおなみ)
「福島市大波地区の餅の郷プロジェクト」
- 欽藍社
「藍染めを活用した、地域住民と首都圏クリエイターによる『共同のものづくりと小さな交易』モデルの構築プロジェクト」
- 一般社団法人JAST(日本ソーシャルセラピストアカデミー)
「たいせつなのは思いやり『こどもこころの防災師』育成事業」
- NPO法人ソーシャルデザインワークス
「ソーシャルスクエアを拠点とした『ごちゃまぜ』のまちづくり」
- なみとも
「なみともプロジェクト(～浪江町に若者を呼び込もうプロジェクト)」
- 福島県CAPグループ連絡会
「子どもたちが自分の人権を知るためのCAPプログラム」
- ベルフォンテ
「転入女性が暮らしやすい福島づくりプロジェクト」
- ママチャンネルまつり実行委員会
「福島で子育てをする人、応援する人が集えるイベントと平日カルチャー講座の実施から待機児童問題の課題解消へ向けたネットワーク、コミュニティの創造」

NPO支援の人材を増やすための「コンサルタント養成講座」

NPOマネジメントの支援ができるコンサルタントを養成することを目的に、「NPOマネジメント支援コンサルタント養成入門講座」を開講しました。今年は「福島の団体を支援できること」を条件に、東京で受講をしてもらいました。講座は「通信講座」「教室学習」「実際に福島で活動するNPOでの実習」の3本柱で行いました。11名の修了生は、今後経験を積みながら、福島のNPOの支援をします。



受講生人数……………11名

総受講時間……………通信講座[30日間]
教室学習[39時間]
実習[20時間]

実習先団体……………3団体

受講生満足度………100%(教室学習・実習において「満足」「概ね満足」)

講師……………●一般社団法人ふくしま連携復興センター 事務局長 遠山賢一郎氏
●モジョコンサルティング合同会社 代表 長浜洋二氏
●NPO法人日本ファシリテーション協会 フェロー 加留部貴行氏
●公益財団法人パブリックリソース財団 事務局長 田口由紀絵

新しいプロジェクトに取り組む人を育てる「ふくしま志高塾」

未来を志向した夢のあるプロジェクトを地域で実現できる人材を育成するため「ふくしま志高塾」を開講しました。ふくしま志高塾は、「講義研修編」「企画研修編」「メンタリング」の3段階で構成されています。塾生たちは7ヶ月かけて熟成させたプロジェクトを「プレゼンテーション大会」で発表し、会場の方々から意見や応援をいただきました。

受講者数……………4名

プレゼンテーション大会参加者数……………56名

総受講日数……………4日間+メンタリング期間3ヶ月

講師……………●一般社団法人ふくしま未来研究会／志高塾・塾頭 佐藤勝三氏
●社会起業大学 学長 田中勇一氏
●一般財団法人たんぼぼの家 理事長 播磨靖夫氏



共感大賞を受賞した高橋真利恵様

NPOの組織力を上げるための経営技術支援の実施

2018年度より、助成対象団体に対して組織運営上に必要な経営技術支援を始めました。これは、2017年度に弊財団が開催した「NPOの持続的展開を考える公開研究会」の中で提起された「財源分析をするうえで、正確に経理処理ができていない団体が多い」といった意見や「組織拡大や世代交代に向けての新規人材を入れていく上での基盤が整わない」といった意見等より、新たに構築した支援プログラムです。2018年度は、税理士等の専門家を助成対象団体に派遣し、経理担当者に対して直接アドバイスを行う財務会計専門家派遣や、労務管理支援として県内のNPOを対象にセミナーを開催し、組織規模や実態に合わせて社労士が労務管理の基本的な研修を行ったほか、個別相談も実施しました。

財務会計専門家派遣先………6団体

派遣専門家……………●平野由紀子税理士事務所 平野由紀子氏
●公益財団法人パブリックリソース財団 評議員 山崎富一氏

労務管理セミナー参加者数………20名

講師……………●くろまさ社会保険労務士事務所 黒政健氏

大和証券グループ 輝く未来へ こども応援基金

深刻な社会問題・子どもの貧困の連鎖を防ぐ

株式会社大和証券グループ本社の持続可能な社会の実現に向けて貢献する活動の一環として、貧困状況にある子どもの環境改善や貧困の連鎖を防止することを目的に創設されました。子どもの人生への意欲を育み将来の貧困リスクを低減する先駆的な事業が、効果的で継続的なものになるための事業開発を支援し、子どもの貧困対策におけるイノベーションを応援します。

基金創設者のコメント

株式会社大和証券グループ本社 執行役社長
中田 誠司様

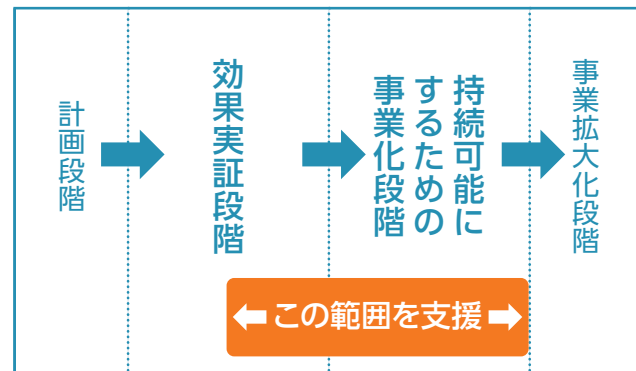


経済的な問題で将来に自由な夢を描けない子どもたちを救いたいという想いから、パブリックリソース財団と協働し、本基金を設立しました。貧困の連鎖防止に有効で波及効果の高い取組みに対して、その事業化を支援することで子どもの貧困問題解決の一助となることを目指しています。本基金で支援しているNPOの皆様の活動現場を拝見し、企業として取り組めることは何かを改めて考える機会を私自身が持つこともできました。全ての子どもたちが“輝く未来”へ前進できるよう、これからも力を尽くしたいと思います。

貧困の連鎖を断ち切る、イノベーティブな事業開発を応援

当基金は、子どもを支援する新しく挑戦的な仕組みを、さらに受益者を増やすことができるよう、持続可能な事業モデルとなるまでの開発段階を支援する、ユニークな助成事業です。助成金の給付される3年間の間に、事業性やインパクト拡大のための仕組みづくりを行い、自律できるように支援を行います。本年度は、これまで個別団体が持っていたノウハウを、違う支援の仕組みに再構築したり、他団体に普及させる取り組みや、インパクト拡大に向けた新しいツールの開発・実装などの事業が採択されました。

NPO、社会的企業の発展段階



認定NPO法人エデュケーションエキューブ
複合型学習拠点「スタディ・プレイス」の2校目を開講



認定NPO法人D×P
定時制高校にて「いごこちカフェ」の開催

寄付金額 23,131,604円
助成金額 15,950,000円
応募団体数 40団体
助成対象団体数 5団体 (新規団体: 2団体、継続団体: 3団体)
助成対象団体名と助成対象事業名

- 【新規団体】 ● 認定NPO法人エデュケーションエキューブ (福岡県) 「複合型学習拠点『スタディプレイス』の事業開発」
● 認定NPO法人D×P (大阪府) 「学校と連携した『授業』×食堂を有効活用した『居場所』の事業開発」
【継続団体】 ● 認定 NPO法人SOS子どもの村JAPAN (福岡県) 「『家族の未来応援プロジェクト』の事業開発」
● 認定NPO法人PIECES (東京都) 「『孤立した子どもに対する地域のアウトリーチ人材育成プログラム』の事業開発」
● NPO法人Learning for All (東京都) 「『学習支援ナレッジ展開』の事業開発」

未来につなぐふるさと基金

企業・中間支援・NPOがそれぞれの強みを活かし、生物多様性の大切さを訴える

キヤノンマーケティングジャパン株式会社 (以下、キヤノンMJ) より、使用済みカートリッジ回収数やコピー用紙販売数に応じたご寄付をいただいで運営しています。キヤノングループ、弊財団、日本自然保護協会が協力して、生物多様性保全の活動を行う団体を支援し、広く市民に向けた啓発に取り組んでいます。

基金創設者のコメント

キヤノンマーケティングジャパン株式会社 CSR本部CSR推進部CSR推進グループ
広田 由美子様

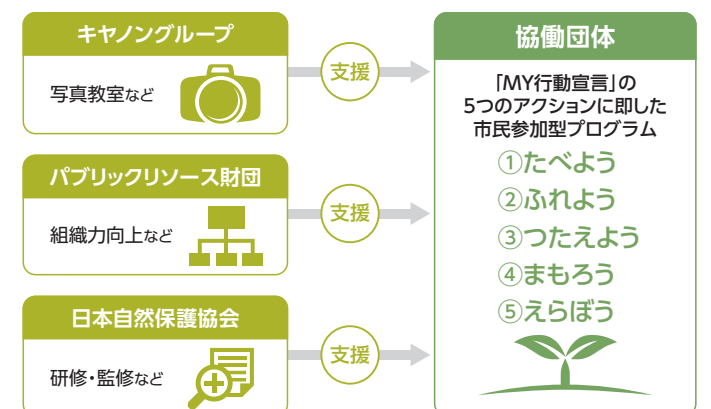


本事業では、助成金だけではなく、一眼レフカメラ写真教室の開催や組織力向上の支援なども行っております。そういった活動で協働団体の皆様のお役に立てていれば大変光栄なことだと思います。引き続き、パブリックリソース財団様、日本自然保護協会様のご協力を仰ぎながら、生物多様性の保全や啓発に取り組んでいる協働団体様の活動に対して弊社ならではの支援を行い、この活動を広く波及できますよう尽力してまいります。

2018年度は、10回の写真教室の実施、46の市民参加型プログラムに合計1,086名が参加しました。



— 未来につなぐふるさとプロジェクトの概要 —



各団体の活動の様子は、キヤノンMJの「未来につなぐふるさとプロジェクト」に掲載されています。
<http://cweb.canon.jp/csr/furusato/>

寄付金額 13,274,213円
助成金額 4,743,000円
応募団体数 38団体
協働団体数 10団体 (新規団体: 5団体、継続団体: 5団体)
協働団体名と支援対象事業名

【新規団体】

- 海辺工房ひとで (静岡県)
「『もっと、海の生きもの!』海の生物ふれあい教室とビーチコーミング、地引網と魚のスケッチ教室、駿河湾の生物講義と海の生物写真教室」
- NPO法人霧多布湿原ナショナルトラスト (北海道)
「地域の子どもたちを対象とした環境教育プログラム『きりたっぷ子ども自然クラブ』の実施」
- NPO法人小網代野外活動調整会議 (神奈川県)
「小網代の森のアカテガニから生物多様性保全を学ぶ」
- 富士山アウトドアミュージアム (山梨県)
「富士山麓でおこる野生動物交通事故を、広く認識してもらい通報協力者を増やすとともに事故自体を減らす」
- NPO法人宮古島海の環境ネットワーク (沖縄県)
「自然体験を通して海の楽しさ、貴重さを伝え、地域の人々の環境意識の向上、環境保護に寄与する。」

【継続団体】

- NPO法人アサザ基金 (茨城県)
「ビオトープ農法の普及と確立」
- NPO法人河北潟湖沼研究所 (石川県)
「農地での生きもの観察、協働作業、地域の食を通じて、地域の人、自然環境、そこにいる生きものがつながる。」
- NPO法人田んぼ (宮城県)
「田んぼの生物多様性と稲作文化を中心とした生物文化多様性向上のための学習」
- NPO法人もりねっと北海道 (北海道)
「見つめる、撮る、伝える、地域の自然『自然感撮ワークショップ』」
- NPO法人森のライフスタイル研究所 (東京都)
「八王子市上川特別緑地保全地区における棚田の維持保全と生物多様性を回復させるための伐採」

「魚沼の未来基金」では、新潟県魚沼地域の塩沢信用組合の組合員を中心とする住民や企業の皆様からの志あるご寄付をもとに、地域の未来を担う人材に、返済不要の給付型奨学金「はばたき奨学金」を給付しています。

魚沼の未来基金の特徴

信用組合が組合員に呼びかけて寄付を募り、共に地域に貢献する社会貢献のプラットフォームを提供するのは、全国初の取り組みです。公益財団と協働し、基金を公益財団内におくことで、寄付者に税制優遇のメリットを提供すると同時に、寄付金使途の透明性を実現しています。



贈呈式の様子

「はばたき奨学金」3年度目の拡大

第一期（2017年3月～2018年3月）は、新高校1年生22名に、第二期（2018年3月～2019年3月）では、新高校1年生19名・新高校2・3年生19名に奨学金を給付。第三期（2019年3月～2020年3月）は、さらに支給人数を拡大し、魚沼地域のひとり親家庭に暮らす生徒50名が奨学生として決定しました。



奨学生のボランティア活動参加

基金への支援の広がり

2018年度には、元プロ野球選手の山田久志様からも当基金への応援メッセージをいただきました。塩沢信用組合の通常総代会にて特別講演をいただいた際に、当基金の趣旨にご賛同いただいたことをきっかけにエールをいただきました。また、魚沼市について南魚沼市も当基金への寄付を市民税の軽減対象としていただきました。当基金は塩沢信用組合の組合員の方以外にも、新潟にルーツのある方や基金の活動に感銘を受けられた方など、全国からご寄付をいただいております。



寄付金額 ……………7,089,811円

寄付件数 ……………226件

奨学金総額 ……………第一期（2017年3月～2018年3月）：2,112,000円
第二期（2018年3月～2019年3月）：2,175,000円
第三期（2019年3月～2020年3月）：3,468,000円（予定）

応募者数 ……………51名

奨学生数 ……………第一期：22名
第二期：38名
第三期：50名

基金創設者のコメント

塩沢信用組合 理事長
小野沢 一成様



ふるさと納税は、自治体からの返礼品を目当てにした「カタログショッピング」的な様相を呈している。同じ寄付でも見返りを求めない善意によるもの。この善意の輪は地域内は勿論、多方面に広がりつつある。この気運がもっと高まることを期待したい。ボランティア活動に参加して、地域の人たちと直接かかわることの喜びを子どもたちは感じてくれている。卒業後は、世界へ羽ばたきたいいずれ故郷に恩返しするような人にそだってほしい。

奨学生代表のコメント

私は小さい頃から父親がいませんでした。自分が高校に行けるかどうか。そう悩んでいた時、奨学金制度のことを知り、応募しました。改めて自分の学力や未来について、そしてこの魚沼について考えることができ、自分にとっての目標や多くの方から支えられているということのありがたさを実感することができました。この魚沼の未来基金に携わっているすべての方への感謝の気持ちを忘れずに、日々を過ごしていきます。この度はありがとうございました。

社会的インパクトの測定

弊財団では、寄付の効果を最大限に高め手ごたえのある寄付を実現するために寄付や助成によって行われたプログラムの社会的インパクトの測定を、ロジックモデルやSROI（Social Return on Investment）などの手法を使って実施しています。2018年度は、NPO法人CAPセンター・JAPANの組織基盤強化事業のSROI評価およびNPO法人あそびっこネットワークの事業評価を実施しました。

これまでの
評価事例

- ゴールドマン・サックス「中小企業経営改革プログラム」社会的インパクト評価
- Panasonic NPOサポート ファンド 社会的インパクト評価
- Panasonic NPOサポート ファンド 助成事業評価
- JTインターナショナル財団 東日本大震災被災地支援活動にかかる民間寄付の成果測定



This is a shortened or summary version of a report assured by Social Value International

☆弊財団は日本で初めて
Social Value Internationalの認証
(Assurance)を取得した団体です

日本初の「寄付適格性評価」の開発・実施

弊財団では、ご寄付を1円も無駄にすることなく効果的に活かせる団体を寄付者や社会的投資家にご紹介するために、「寄付適格性」の評価を開発し、実施しています。「寄付適格性」の評価は、これまでも評価の視点として重視してきた、「ミッション・ビジョン」「対象者のニーズへの対応」「目標の達成度」に加え、組織が対象者のニーズを的確に把握しているか、どのような変化をもたらすかが明確になっているか（セオリーオブチェンジ）、それに照らし合わせて成果評価を行っているか、環境変化に対応してプログラムを変化させているか、失敗から学んで改善を行う組織であるか、などの新たな視点を加えています。

<NPCのフレームワークを採用>

寄付適格性評価のための新たな視点を加えるにあたっては、既存のさまざまな評価システムやフレームワークの Recherche を行い、イギリスのシンクタンクである New Philanthropy Capital が開発したフレームワークを採用しています。日本の NPO や社会的企業の水準に合わせて再構築を行いました。取り組まなければならない社会的課題に対して、効果的な事業を行う組織であるか（社会的インパクト）、寄付を確実に活かす組織であるか（信頼性）、という2つの視点と、4つの領域（「目的」、「インパクトの実践」、「人」、「財政と運営」）で組織分析を行います。

組織基盤強化支援

組織の基盤を強化することで、継続的な組織運営を可能にするとともに、社会的なインパクトの拡大が可能になります。2018年度は、様々な専門家と連携することで、9団体のコンサルティングを行い、各団体の組織基盤強化を支援しました。

専門家のコメント

認定NPO法人 日本ファンドレイジング協会
事務局長
鴨崎 貴泰様



「どの団体へ寄付すればいいのかわからない」という寄付者のニーズを満たす寄付適格性評価は日本では前例のない大変意義深い取り組みです。特に組織の財政やガバナンスなどのこれまでの組織評価の観点に加えて社会的インパクト評価の観点を入れている点が画期的です。寄付適格性評価が社会に広く浸透し、活用されることで日本の寄付や社会的投資市場拡大に寄与することが期待されます。

寄付適格性評価の枠組み

2つの視点	社会的インパクトを出せる組織であるか 組織の信頼性	4つの領域	
		目的	インパクトの実践
重視する視点		人	財政と運営
		● 受益者のニーズ ● 成果を出す戦略 ● 変化を受け入れる	● 失敗から学ぶ ● スタッフや関係者のやる気を引き出す ● 財務・マネジメントがしっかりしている

組織診断



中期戦略・事業戦略



事業計画、顧客開拓、人的資源開発

継続的な運営、インパクト拡大へ

- NPO法人あきた結いネット
- NPO法人いわき自立生活センター
- 公益財団法人ケア・インターナショナル ジャパン
- 一般社団法人JAST（日本ソーシャルセラピストアカデミー）
- NPO法人ソーシャルデザインワークス

- 一般社団法人えこね南相馬研究機構
- 社会福祉法人日本国際社会事業団

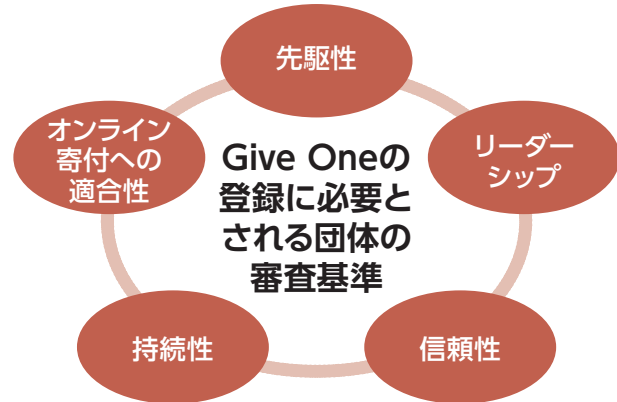
- NPO法人みんなのひろば
- NPO法人Leaf

あなたの関心と身近な行動から支援を

日本で最初のオンライン寄付サイト「Give One (ギブワン)」

収入の1%を寄付しよう、という想いを名前に込めたオンライン寄付サイトGive One (ギブワン)。初めての方でも手軽に、気軽に、1,000円からご寄付いただけます。

環境、こども、まちづくり、災害復興など多くのテーマ、地域のプロジェクトを網羅することで、ユーザーに今の社会課題に触れていただき、共感するNPOへの寄付を通じて社会貢献に参加できる機会を提供しています。



Give One登録団体一覧

【環境】知床自然大学院大学設立財団、石西礫湖サンゴ礁基金、樹木・環境ネットワーク協会、エバーラスティング・ネイチャー、トラ・ゾウ保護基金、キープ協会、アイサーチ・ジャパン、サンクチュアリ エヌピーオー、霧多布湿原ナショナルトラスト、白神山地を守る会、日本ウミガメ協議会、アサザ基金、共存の森ネットワーク、緑と水の連絡会議、緑の地球ネットワーク、メコン・ウォッチ、グローバル・ヴィレッジ、グリーンアライアンス、日本クマネットワーク、JUON (樹恩) NETWORK、アースウォッチ・ジャパン、大雪山自然学校、more trees、棚田LOVER's、おおい環境保全フォーラム

【国際協力】アイキャン、シャプラニール、難民を助ける会、ピース ウィンズ・ジャパン、アムダ (AMDA)、アジア・アフリカと共に歩む会、ハンガー・フリー・ワールド、日本国際ボランティアセンター (JVC)、ケア・インターナショナルジャパン、ジャパン・プラットフォーム、民際センター、地球の友と歩む会、タンザニア・ボレボレクラブ、パレスチナ子どものキャンペーン、日本国際民間協力会 (NICCO)、CODE 海外災害援助市民センター、WE 21ジャパン、チャイルド・ファンド・ジャパン、21世紀協会、ワールドキッズコミュニティ、インド福祉村協会、ブリッジ エーシア ジャパン、グッドネーパーズ・ジャパン、JHP・学校をつくる会、カパティラン、シャンティ国際ボランティア会、国際医療技術財団、地雷廃絶日本キャンペーン、e-Education、ウォーターエイドジャパン、ジャパンハート、日本地雷処理を支援する会 (JMAS)、ムラのミライ、アジア協会アジア友の会、ACE、エイズ孤児支援NGO・PLAS

【持続可能な社会】ナマケモノ倶楽部、きょうとグリーンファン、トージバ、気候ネットワーク、野生生物保全論研究会、A SEED JAPAN、FoE Japan、環境文明二十一、あおぞら財団、伊万里はちがめプラン、ESDJ

【障がい者支援】日本フィランソロピー協会、ぱれっと、めぐはうす地域生活支援センターMOTA、DPI日本会議、トゥギャザー、ゆるら、日本点字図書館、スペシャルオリンピックス日本、こころ塾、長野サマライズ・センター、サイエンス・アクセシビリティ・ネット、インフォメーションギャップバスター、響愛学園、バイリンガル・バイカルチュラルろう教育センター、発達わんぱく会

【患者支援】病気の子どもの支援ネット遊びのボランティア、日本クリニクラウン協会、マギーズ東京、スマイリングホスピタルジャパン、難病の子どもとその家族へ夢を

【女性】女性の安全と健康のための支援教育センター、働く女性の全国センター (ACW2)、しんぐるまざあず・ふぉーらむ・関西

【暴力】女性と子ども支援センター ウィメンズネット・こうべ、全国女性シェルターネット、レイプクライシスセンター Tsubomi

【ホームレス支援】新宿連絡会、ビッグイシュー基金、自立支援センターふるさと会

【HIV・エイズ】HIVと人権・情報センター

【科学】高木仁三郎市民科学基金、ロボカップ日本委員会

【児童養護施設】ブリッジフォースマイル、みらいの森

【子どもの虐待】子どもの虐待防止センター、子どもの虐待防止ネットワーク・あいち、児童虐待防止協会、CAPセンター・JAPAN

【子どもシェルター】子どもセンター「パオ」、子どもシェルターモモ、子どもセンターぱると

【子ども】東京シュレ、東京YMCA "liby (リビー)"、青少年育成支援フォーラム、楠の木学園、エッジ、リソースセンターone、アートピッツ地球の子ネットワーク、アレルギー支援ネットワーク、リヴォルヴ学校教育研究所、箕面こどもの森学園、e-MADO病気のこどもの総合ケアネット、SOS子どもの村JAPAN、こどもコミュニティケア、東京YMCA、ビーンズふくしま、遠野まごころネット、チャンス・フォー・チルドレン、日本IDDMネットワーク、越谷らるど、チャイルドラインあいち、チャイルド・リソース・センター、いるかねっと、Learning for All、リトルワンズ、ピアサポートネットしづや、地域・教育魅力化プラットフォーム、チャリティーサンタ

【子育て】フローレンス

【貧困家庭】フードバンク関西、キッズドア、フードバンク山梨

【定住外国人支援】神戸定住外国人支援センター (KFC)、多言語社会リソースかながわ

【社会教育】芸術と遊び創造協会、日本おもちゃ病院協会、おかやま犯罪被害者サポート・ファミリーズ、Hands On Tokyo、ETIC、(エティック)

【人権】アムネスティ・インターナショナル日本

【コミュニティファン】みのお山麓保全ファンド

【NPO支援】新潟NPO協会

【就労支援】彩結び、フェアスタートサポート

【市民活動】ネットワーク・市民アーカイブ

【東日本大震災】いわき放射能市民測定室「たらちね」、輝くなかまチャレンジド、住民互助福祉団体 ささえ愛山元、創る村、なごみ、ネットワークオレンジ、のんびりすみちゃんの家、グリーンケア&ピアサポート 福島れんげの会、ふよう士2100、みやぎ身体障害者サポートクラブ、桜ライン311

【自殺防止】仙台いのちの電話、東京自殺防止センター

【芸術】芸術家と子どもたち、エイブル・アート・ジャパン、たんぼの家

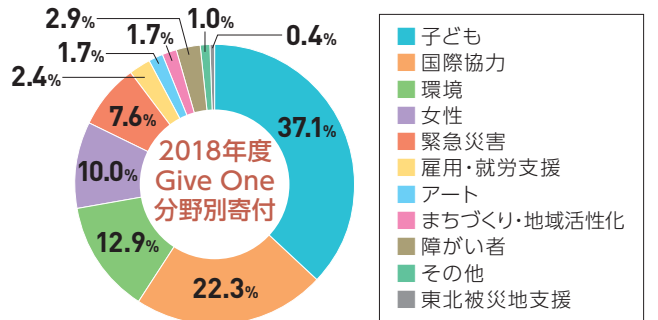
【まちづくり】金澤町家研究会、まちぽっと、尾道空き家再生プロジェクト、あおもりNPOサポートセンター、ぐらすかわさき、ReRoots

【引きこもり】楽の会リーラ、KHJ全国ひきこもり家族会連合会

【支援者支援】日本ケアラー連盟

多様な「子どもの支援」に多くのご寄付をつなぎました

未来をにう子どもたちは、社会で見守る大切な存在です。2018年度のGive Oneでは、寄付の4割近くが子どもの支援分野に充てられました。貧困家庭の子どもに学習支援を行う「Learning for All」、貧困世帯に食料などを届ける「フードバンク関西」、虐待などで家庭に戻れない子どもを支援する「子どもシェルターモモ」、難病を患う子どもと家族を支える「難病の子どもとその家族に夢を」など、多様な「子どもの支援」に多くのご寄付をいただきました。



寄付のポータルサイトとしての役割

ドメスティックバイオレンス (DV) の被害者支援に取り組む団体は、被害者をさらなる暴力から守るために住所や連絡先を伏せるなど、情報発信に制約があります。Give Oneがご寄付の呼びかけや受け付けをするなど、寄付の窓口になっています。2018年度は、「全国女性シェルターネット」や「ウィメンズネットこうべ」などにあわせて180万円以上のご寄付をつなぎました。

寄付金額 …… 29,048,060円
助成金額 …… 22,430,593円
寄付件数 …… 5,254件
助成実績 …… 153団体
285プロジェクト

登録団体のコメント

NPO法人全国女性シェルターネット 理事
近藤 恵子様



私たちは、DV・性暴力被害女性や子どもたちの命を支える支援現場でパブリックリソースセンター (現：パブリックリソース財団) と出会い、Give One (ギブワン) 発足当初から継続的なご支援をいただいてまいりました。シェルターサポートを柱とする暴力根絶・支援活動を展開しつつ、最近ではDV・性暴力被害影響下にある子どもたちの回復支援プログラムの実践拡充に力を注いでいます。

身近なことからできる多様な寄付のしくみ

自動販売機の飲み物1本買うごとに2円が寄付になる「ゆび募金」

寄付つき飲料自動販売機の設置を進めている認定NPO法人ジャパン・カインドネス協会と連携し、飲み物の売り上げから福島、宮城、岩手の子どもたちが自らの力で未来を切り開いていけるような活動を行う団体に、助成を行いました。ゆび募金は、自動販売機設置場所の提供者と飲料メーカーがそれぞれ、飲料1本の販売につき1円ずつの寄付を拠出します。購入者は、自動販売機に表記されている支援先を知って購入することができる仕組みです。

●東北3.11基金

寄付金額 …… 1,748,386円
助成金額 …… 800,000円
応募団体数 …… 23団体
助成団体数 …… 2団体

助成対象団体名と助成対象事業名

- 特定非営利活動法人いわき放射能市民測定室
「＊遊びの力＊で子どもを元気にするプロジェクト」
- 一般社団法人ヴォイス・オブ・フクシマ
「『子どもの声が届く町～とみおかボイスステーション～』防災無線活用事業」

使わないブランド品で寄付できる「Brand Pledge」

ブランド品買取サービス「ブランディア」と寄付プラットフォーム「Syncable」との共同サービス「Brand Pledge」を利用して、不要になった洋服やバッグ、アクセサリーなどを売った寄付者の方々から当財団の「あい基金」を寄付先に指定していただき、2018年度は18,830円のご寄付をいただきました。



Special Thanks (敬称略)

賛助会員および財団運営基金へのご寄付

●青木 修三	●小笠原 恵美子	●鈴木 秀行	●中村 順子	●牧野 洋子
●磯 ちず子	●河合 充子	●公益財団法人助成財団センター	●西田 治子	●松田 宏一
●磯谷 千代美	●菊池 信太郎	●第一勧業信用組合	●野澤 タキ子	●村林 正次
●井上 良一	●有限会社熊谷産業	●高野 光世	●波多野 肇	●茂木 義三郎
●鷗尾 雅久	●熊木 由次	●高橋 弘	●原田 智明	●山岸 弘志
●浦田 泉	●桜井 晃	●田口 治	●深澤 由美子	●山崎 富一
●蛭名 喜代作	●佐藤 滋	●田中 義博	●一般社団法人ふくしま未来研究会	
●岡田 州代	●佐藤 信行	●土肥 寿員	●藤井 幸子	
●岡田 恵子	●鈴木 政孝	●中島 智人	●株式会社プレジャーワークス	他 匿名9名

あい基金へのご寄付

●磯 ちず子	●柴沼 俊一	●中村 敏子	●茂木 義三郎
●一般社団法人Women Help Women	●食品業界女性経営者ネットワーク (WF-NET)	●深澤 由美子	●1名のBOOK募金を通じた寄付者の方
●浦田 泉		●福田 誠子	●1名のBrand Pledgeを通じた寄付者の方
●岡田 州代	●有限会社助六	●ふくねこ堂	●5名のつながる募金を通じた寄付者の皆様
●岡田 恵子	●株式会社STYZ	●藤井 幸子	
●河合 充子	●長浜 靖子	●牧野 洋子	
●岸本 幸子	●中村 順子	●松田 宏一	他 匿名4名

I.H.K基金へのご寄付

匿名1名	●岡田 恵子	●株式会社クオカード	●速水 洋志	●茂木 義三郎	他 匿名1名
------	--------	------------	--------	---------	--------

Women's Social Change Fundへのご寄付

●厚子・東光・フィッシュ	●石塚 淳子	●木全 ミツ	他 匿名8名
--------------	--------	--------	--------

魚沼の未来基金へのご寄付

●阿部 市郎	●籠田 淑子	●櫻井 三男	●株式会社滝沢技研	●福原 ヒロ子
●阿部 康雄	●笠原 貴美男	●佐藤 たけ	●滝沢 徹	●福原 政文
●阿部 保幸	●片山 茂	●佐藤 文音	●滝沢 正明	●藤ノ木 靖子
●有限会社アンバサダー	●加藤 丈夫	●佐野 剛	●株式会社タキノガワ	●伏見 勝
●井口 伸夫	●学校法人金城学園	●塩沢信用組合	●武淵 和昭	●有限会社フジミヤ
●井口 晴一	●幼保連携型認定こども園	●志賀 達之助	●株式会社館野測量	●星 伸哉
●池田 健一	●金城幼稚園・保育園	●株式会社庄治郎商会	●橘 美千子	●星 宗兵
●有限会社石田電機商会	●上村建設工業株式会社	●信和会	●田村 正典	●星野 富夫
●石原 友三郎	●上村 弘之	●須藤 昇二	●月岡 奈津子	●株式会社丸川屋工務店
●石山 富蔵	●亀山 博之	●角谷 正雄	●津南信栄会	●有限会社丸高
●今井 満	●桐生 厚義	●鈴木 美穂	●株式会社天翔	●合資会社みうらや
●有限会社魚沼ロード・サービス	●桐生 好雄	●関 正晴	●富永 修	●水澤 行雄
●内山 信裕	●草津 弘子	●関 隆一	●外谷 久夫	●株式会社みやま
●江口 幸司	●農事組合法人グリーンアース津南	●瀬下 賢一	●中澤 好夫	●森下 八千代
●株式会社エフエム雪国	●桑原 信一	●菌部 昌代	●中嶋 成夫	●山田 廣正
●有限会社エフ商会	●桑原 正	●有限会社ソワソ	●有限会社新潟大成	●山田 正春
●遠藤 憲子	●桑原 保夫	●有限会社大栄食品	●西野 敬太郎	●山田 学
●遠藤 実	●小出郷信栄会	●有限会社大地	●株式会社ニューラルアスリート	●山田 泰
●大熊 達義	●有限会社小出自動車工業	●大洋設備工業有限公司	●株式会社バイオマスレジン南魚沼	●山辺 裕章
●大塚 シゲ子	●株式会社光成電気	●高野 好雄	●羽賀 謙祐	●株式会社吉田建設
●大塚 与四次	●株式会社古城館／	●高橋 郁夫	●株式会社羽吹組	●米山 幸子
●大桃 久子	●丸山温泉古城館	●高橋 清隆	●羽吹 宏幸	●涌井 好一
●株式会社大平きこの研究所	●小林 克行	●高橋 ハツ子	●林 澄子	●渡辺 みさ子
●小野澤 一成	●有限会社小林電設	●高橋 守	●林 茂一	●割田 賢一
●小野塚 徹	●阪西 由紀夫	●株式会社高橋工務所	●株式会社ハリカ六日町	
●貝瀬 一恵	●櫻井 一枝	●高原 幸夫	●平賀 孝雄	他 匿名1名

エイブルアート年賀状基金へのご寄付

●株式会社プリプレス・センター	●株式会社クオカード	●住友生命保険相互会社柏常総支社	他 匿名1名
-----------------	------------	------------------	--------

AED・健康スポーツ基金へのご寄付

※2018年度中に
閉鎖いたしました

AED・地域あんしん基金へのご寄付

●キャンノンマーケティングジャパン株式会社	
●ジョーンズ ラング ラサール株式会社	他 匿名1名

角方基金へのご寄付

●角方 正幸

Give One登録団体を指定したご寄付

●のべ5,254人のオンライン寄付者の皆様	●株式会社クオカード
●愛フラワースタジオ	●ゴールドマン・サックス証券
●azbil みつばち倶楽部	●藤井 幸子
●株式会社アミナコレクション	●株式会社榎屋池田商店
●株式会社アロス	●牧野 洋子
●井上 良一	●みずほ社会貢献ファンド
●株式会社エス・シー・シー	他 匿名8名

教育基金

●藤原 なつみ	●12名のBOOK募金を通じた寄付者の皆様
---------	-----------------------

緊急震災支援基金へのご寄付

●MHD モエ ヘネシー デリアジオ株式会社

Good Job!基金へのご寄付

●長谷川 安正	他匿名1名
---------	-------

ゴールドマン・サックス基金へのご寄付

●ゴールドマン・サックス証券株式会社

佐渡水仙基金

●久住 剛	●久住 浩
-------	-------

純 子ども基金へのご寄付

●國田 純

大和証券グループ 輝く未来へ こども応援基金へのご寄付

●株式会社大和証券グループ本社	●株式会社大和ネクスト銀行
-----------------	---------------

東北3.11基金へのご寄付

●認定NPO法人ジャパン・カインドネス協会

ふくしま未来基金へのご寄付

●岡田 恵子	●都賀 潔子
--------	--------

未来につなぐふるさと基金へのご寄付

●キャンノンシステムアンドサポート株式会社
●キャンノンマーケティングジャパン株式会社
●2名のBOOK募金を通じた寄付者の皆様

ゆーじチャレンジ基金へのご寄付

●伊藤 裕司

委託元／協賛／協力

●アズビル株式会社	●ダウ・ケミカル日本株式会社
●株式会社内田洋行	●ティファニー・アンド・カンパニー・ジャパン・インク
●クラブツーリズム株式会社	●デール・カーネギー・トレーニング・ジャパン
●JWLI (Japanese Women's Leadership Initiative)	●公益社団法人日本証券アナリスト協会
●株式会社時事通信	●パナソニック株式会社
●損害保険ジャパン日本興亜株式会社	●フィッシュ・ファミリー財団
●公益財団法人損保ジャパン日本興亜環境財団	

助成・顕彰事業選考委員

※ご所属・お役職は
委嘱当時のものです

●赤石千衣子 (NPO法人しんぐるるまざあず・ふぉーらむ理事長)
●秋葉 武 (立命館大学産業社会学部教授)
●浅野 幸子 (早稲田大学「地域社会と危機管理研究所」招聘研究員)
●厚子・東光・フィッシュ (フィッシュ・ファミリー財団共同創設者・理事)
●雨森 孝悦 (日本福祉大学教授)
●石川 治江 (特定非営利活動法人ケア・センターやわらぎ代表理事)
●市瀬 敬子 (NPO法人世田谷福祉住環境コーディネーター研究会理事)
●伊藤 隆 (世界文化フォーラムアライアンス日本幹事)
●井上 英之 (一般社団法人INNO-Lab International共同代表)
●大森 智恵子 (NPO法人子ども劇場千葉県センター理事)
●岡本 拓也 (ソーシャルマネジメント合同会社代表、NPO法人ソーシャルベンチャー・パートナーズ東京理事)
●小河 光治 (公益財団法人あすのば代表理事)
●小野澤 一成 (塩沢信用組合理事長)
●小野田 全宏 (静岡県ボランティア協会市民活動センター理事長)
●川那部 留理子 (株式会社大和証券グループ本社経営企画部SDGs推進室長)
●菅野 日出男 (一般財団法人ふくしま未来研究会)
●岸本 幸子 (公益財団法人パブリックリソース財団代表理事)
●木山 啓子 (NPO法人ジェン(JEN)共同代表理事)
●黒田 かをり (一般財団法人CSO ネットワーク常務理事)
●小園 弥生 (横浜市男女共同参画センター横浜南管理事業課長)
●後藤 なな (公益財団法人日本自然保護協会自然保護部)
●酒井 香世子 (損保ジャパン日本興亜株式会社人事部特命部長)
●桜井 陽子 (NPO法人全国女性会館協議会顧問)
●佐藤 雅一 (魚沼市長)
●鷹野 秀征 (一般社団法人新興事業創出機構(JEBDA)理事長、ソーシャルウィンドウ株式会社代表取締役)
●ダニエル・ペレル (ティファニー・アンド・カンパニー・ジャパン・インク社長)
●中鉢 博之 (NPO法人ビーンズふくしま理事)
●寺尾 仁 (新潟大学工学部建設学科准教授)
●永倉 禮司 (福島大学学長参与)
●西尾 元雄 (キャンノンマーケティングジャパン株式会社総務・CSR本部主席)
●西田 治子 (一般社団法人Women Help Women代表理事、オフィス・フロネシス代表)
●貫井 律 (キャンノンマーケティングジャパン株式会社CSR本部CSR推進部部长)
●萩原 なつ子 (立教大学社会学部・同大学院21世紀社会デザイン研究科教授、認定NPO法人日本NPOセンター副代表理事)
●早坂 修一 (キャンノンマーケティングジャパン株式会社CSR本部CSR推進部)
●林 茂男 (南魚沼市長)
●播磨 靖夫 (財団法人たんぼぼの家理事長、日本ボランティア学会副代表)
●日詰 一幸 (静岡大学人文社会科学部部長)
●古沢 広祐 (国学院大学大学院経済学研究科教授)
●紅邑 晶子 (オフィスBeni代表)
●堀 久美子 (UBS証券株式会社コミュニティアフェアーズ&ダイバーシティエグゼクティブディレクター)
●横 ひさ恵 (NPO法人ニンジン常務理事)
●村上 千里 (公益社団法人日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会、環境委員会副委員長、ESD活動支援センター ユース事業担当コーディネーター)
●山北 洋二 (あしなが育英会顧問)
●山崎 富一 (NPO法人笑顔せたがや理事・事務局長)
●山田 泰久 (NPO法人CANPANセンター代表理事)
●龍治 玲奈 (日本マイクロソフト株式会社 法務政策企画統括本部渉外・社会貢献課長)

専門家／協力機関

●いずみ会計事務所	●公益財団法人日本自然保護協会
●NPO法人ウィメンズアイ	●認定NPO法人日本ファンドレイジング協会
●一般社団法人オープンデータラボ	●NPO法人ハンズオン! 埼玉
●株式会社カルミナ	●一般社団法人ふくしま連携復興センター
●けやき野司法書士法人	●認定NPO法人ブリッジフォースマイル
●株式会社コトヴィア	●株式会社プレジャーワークス
●コネクティブ合同会社	●ほがらか信託株式会社
●NPO法人コムラボ	●本郷税理士事務所
●株式会社シン・ファンドレイジングパートナーズ	●モジョコンサルティング合同会社
●合同会社志事創業社	●ランドマーク税理士法人
●一般社団法人全国レガシーギフト協会	●NPO法人CRファクトリー
●第一勧業信用組合	●一般社団法人CSRレビューフォーラム
●弁護士法人中村綜合法律事務所	●一般社団法人SDGsとうほく
●NPO法人日本エコツーリズムセンター	●株式会社STYZ
●公益財団法人日本健康スポーツ連盟	●一般社団法人Women Help Women

組織体制

理事	久住 剛 ……公益財団法人パブリックリソース財団 代表理事・理事長
	岸本 幸子 ……公益財団法人パブリックリソース財団 代表理事・専務理事
	角方 正幸 ……株式会社大学改革 代表取締役社長
	鷹野 秀征 ……ソーシャルウィンドウ株式会社 代表取締役、一般社団法人新興事業創出機構（JEBDA） 理事長
	西田 治子 ……一般社団法人Women Help Women 代表理事、オフィス・フロネシス 代表
	水口 剛 ……高崎経済大学経済学部 教授
	水谷 衣理 ……一般財団法人世田谷コミュニティ財団 代表理事、株式会社風とつばさ 代表取締役
	由良 聡 ……公益財団法人パブリックリソース財団 法務・コンプライアンス担当

評議員	秋葉 武 ……立命館大学産業社会学部 教授
	雨森 孝悦 ……日本福祉大学 福祉経営学部長
	太田 達男 ……公益財団法人公益法人協会 会長
	岡野 貞彦 ……公益社団法人経済同友会 常務理事
	勝又 英子 ……公益財団法人日本国際交流センター（JCIE） 専務理事・事務局長
	永久 寿夫 ……株式会社PHP研究所 取締役・専務執行役員
	中村 陽一 ……立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科 教授
	前田 和敬 ……公益財団法人日本生産性本部 理事長
	榎 ひさ恵 ……特定非営利活動法人ニンジン 常務理事
	山崎 富一 ……特定非営利活動法人笑顔せたがや 理事・事務局長
	湯瀬 秀行 ……公益財団法人助成財団センター 事務局長代理

監事	跡田 直澄 ……嘉悦大学 副学長、大阪大学大学院 医学系研究科 特任教授
	富岡 順一 ……公益財団法人横浜市芸術文化振興財団 理事

顧問	播磨 靖夫 ……一般財団法人たんぼぼの家 理事長
----	--------------------------

スタッフ 18名	田口 由紀絵 …… 事務局長	原田 桂子 …… 総務担当
	黒木 明日丘 …… プログラムオフィサー	松下 一代 …… 総務担当
	山本 香苗 …… プログラムオフィサー	田中 徹 …… 総務担当
	渡辺 裕 …… プログラムオフィサー	由良 聡 …… 法務・コンプライアンス担当
	五十嵐 航 …… プログラムオフィサー	河合 哲朗 …… シニアフェロー
	山本 健介 …… プログラムオフィサー	赤池 洋二 …… シニアフェロー
	松本 海南 …… プログラムオフィサー	木内 亨 …… 情報システム担当
	蕪木 玲子 …… 経理担当	谷藤 優 …… オンライン寄付サイト運営担当
	関 和実 …… 総務担当	藤本 貴子 …… リサーチ担当

決算報告

正味財産増減計算書

【2018年4月1日から2019年3月31日まで】

(単位:千円)

		2018年度	2017年度	2016年度	2015年度	2014年度	2013年度	
一般正味財産増減の部	1. 経常収益	事業収益	12,086	18,420	23,389	13,810	16,297	25,866
		受取補助金等	0	0	200	0	0	1,487
		寄付金収益	183,869	124,848	98,839	88,811	109,925	76,008
		その他収益	977	790	1,025	1,218	748	77
		合計	196,933	144,059	123,454	103,839	126,970	103,438
	2. 経常費用	事業費	192,314	147,120	117,949	105,083	106,690	88,695
		(うち助成金)	(129,894)	(73,951)	(65,082)	(64,587)	(88,710)	(75,387)
		管理費	4,673	4,172	5,337	4,817	16,469	6,740
		合計	196,988	151,292	123,287	109,899	123,159	95,435
	当期経常増減額	▲ 55	▲ 7,233	167	▲ 6,060	3,811	8,003	
当期経常外増減額	129	0	▲ 23	0	0	0		
当期一般正味財産増減額	73	▲ 7,233	143	▲ 6,060	3,811	8,003		
一般正味財産期首残高	206	7,439	7,295	13,356	9,545	1,542		
一般正味財産期末残高	280	206	7,439	7,296	13,356	9,545		
指定正味財産増減の部	受取指定助成金	0	0	▲ 1,000	0	1,000	0	
	受取指定寄付金	160,104	133,374	58,246	158,142	363,885	48,769	
	一般正味財産への振替額	▲ 183,869	▲ 124,848	▲ 98,839	▲ 88,811	▲ 109,925	▲ 75,841	
	当期指定正味財産増減額	▲ 23,765	8,526	▲ 41,592	69,331	254,960	▲ 27,072	
	指定正味財産期首残高	295,772	287,245	328,838	259,507	4,547	31,620	
	指定正味財産期末残高	272,006	295,772	287,245	328,838	259,507	4,547	
	正味財産期末残高	272,286	295,978	294,685	336,134	272,863	14,092	

貸借対照表

【2019年3月31日現在】

(単位:千円)

		2018年度	2017年度	2016年度	2015年度	2014年度	2013年度	
資産の部	1. 流動資産	現金預金	1,772	495	8,418	6,209	11,726	6,354
		未収金	119	3,468	347	1,447	2,216	6,273
		前払費用	433	632	585	580	453	576
		その他流動資産	0	0	0	0	25	0
		合計	2,325	4,596	9,351	8,236	14,421	13,203
	2. 固定資産	基本財産	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000
		特定資産	270,224	296,348	287,260	326,032	256,187	1,547
		その他固定資産	320	320	320	320	320	0
		合計	273,544	299,668	290,580	329,352	259,507	4,547
		資産合計	275,870	304,264	299,932	337,589	273,928	17,751
負債の部	1. 流動負債	短期借入金	0	2,300	0	0	0	0
		未払金	0	0	0	0	835	3,184
		未払費用	2,864	5,148	3,823	900	0	0
		前受収益	0	0	1,028	66	0	0
		前受会費	0	0	10	30	0	200
		預り金	719	837	385	459	230	275
		合計	3,583	8,285	5,247	1,455	1,065	3,659
		負債合計	3,583	8,285	5,247	1,455	1,065	3,659
正味財産の部	1. 指定正味財産	基本金	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000
		指定寄附金	269,006	292,772	284,245	324,838	255,507	1,547
		受取寄付物品	162	0	0	1,000	1,000	0
		指定助成金	0	0	0	0		0
		指定正味財産合計 (うち基本財産への充当額)	272,006 (3,000)	292,772 (3,000)	287,245 (3,000)	328,838 (3,000)	259,507 (3,000)	4,547 (3,000)
	2. 一般正味財産	一般正味財産	280	206	7,439	7,296	13,356	9,545
		正味財産合計	272,286	295,978	294,685	336,134	272,863	14,092
	負債及び正味財産合計		275,870	304,264	299,932	337,589	273,928	17,751